

令和元年度第1回千葉市市民参加協働推進会議 議事録

1 日時

令和元年8月29日(木) 15:00～17:00

2 開催場所

千葉中央コミュニティセンター10階 101会議室

3 出席者

(委員) 福川会長、井上副会長、粉川委員、小松委員、小柳委員、中村委員、眞智委員、山本俊子委員、山本佳美委員、吉岡委員

(事務局) 山根市民自治推進部長、佐久間市民自治推進課長、小高市民自治推進課長補佐、須田主査、北田主任主事、下村主任主事、矢口主事

(欠席) 浦本委員

4 議題等

- ・平成30年度千葉市市民参加・協働実施状況(案)について
(報告事項)
- ・千葉市市民自治によるまちづくり条例に関する今後の取り組みについて

5 議事の概要

事務局から、「平成30年度千葉市市民参加・協働実施状況(案)」について説明し審議、その後、千葉市市民自治によるまちづくり条例に関する今後の取り組みについて事務局から説明するとともに、意見を聴取した。

6 会議経過

○福川会長

まず、本日の議題について、事務局から資料に沿って説明願う。

○佐久間課長

(資料1-1、1-2、当日配布資料に沿って説明)

○福川会長

質問や意見はいかがか？

○吉岡委員

当日配布資料の事前質問・回答における質問3において、一部、回答内容が全く同じであるが、これは回答のフォーマットがあるのか。

○佐久間課長

事前に調整したわけではないが、各区において事前に情報交換したのではないか。基本的に回数は目安であり、区長が直接話を聞く場なので重要性については十分認識している。

○吉岡委員

状況は理解したが、自身で書けばこのようなことにならない。この資料は公開されるのか。

○佐久間課長

公開される。

○吉岡委員

そうすると、これを見ると6区の職員が真面目にやっていないと受け取られることもある。

○中村委員

区民対話会について、中央区は1回しかやっていない。参加する機会が多い方が出やすい。よいと思ったのは、緑区はテーマや地域を決める際に事前に地域の皆様の意見を伺って決めているようだ。他の区でもやっているかもしれないが、ここからは見えてこなかった。

○粉川委員

先ほどの吉岡委員の意見について、確かに、これを見たときにお怒りになる方はいる。旧態依然のお役所文書というのはまずい。

○小柳委員

花見川区の参加者が、あまりにも少ないように感じた。興味関心を持ってもらい、行きやすくするためにも回数を増やすなどしてほしいし、積極的にアナウンスしてほしい。

○眞智委員

区長との対話会なので、区長の力量が結果に現れている。また、住民ニーズの吸収の仕方が難しくなっていると捉えている。

○中村委員

22ページのNo.15「男性の子育て支援」について、男性の参加者が多くて感激している。この所管課に男女共同参画のセクションが入っていないのか。一緒にやるともっと良い事業になるのではないか。

○佐久間課長

市の仕組みとして、男女共同参画についても各分野にて推進しており、この事業は子育て支援の部門が実施したものである。

○山根部長

男女共同参画のセクションは男性中心の社会に女性の進出をという側面があるが、これは女性中心の子育てに男性をという観点であり、方向が逆である。

○井上副会長

3つほどあるが、まず、29 ページのNo.33「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」について、大学や生命保険会社との共催であり、事業費が0円である。市がこれに絡んでいければベストであるが、市はどう考えているか。

続いて、35 ページの事業について、No.27「廃棄物適正化推進員」は主に自治会に割り当てられているもので、No.29「廃棄物等不適正処理監視事業」は個人が応募されているものである。これらについて、所管課は検証しているのか。場合によっては、見直しも必要である。

続いて、31 ページのNo.4「千葉市を美しくする運動推進事業」、37 ページのNo.37「花のあふれるまちづくり事業」、No.38「市民の森清掃」、No.40「公園清掃」、40 ページのNo.57「花のあふれる道づくり事業」について、全て同じような事業である。このあたりも連携をして取り組めるとよい。市民自治推進課として市のコーディネートをしていただけるとよい。

最後に、余談だが33 ページのNo.16「成人の日を祝う会」は必要であろうか。今の時代、予算も限られているので、自治体によっては廃止しているところもある。

○佐久間課長

「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」については、市と大学及び企業との共催で行ったもので、本市としても、このような協働を推進していく必要があると認識している。

廃棄物適正化推進員については、各町内自治会への割り当てを行っているのが実情である。

3 点目のご指摘は、千葉市を美しくする会を所管する当課も関係している事業もあるが、意識をしており、事業の切り分けができるものは整理してきている。

○吉岡委員

似たような事業が羅列されている印象を受ける。井上副会長からもゴミ問題の例示があったように、これからやりきれなくなっていく。庁内協働推進課のような部署も必要ではないか。過去に川崎市の企画調整局と関わったことがあったが、そこは上手に横串を入れていた。千葉市にも同様のセクションがあるといい。

○福川会長

千葉市にも同様のセクションはあり、予算をつける際の調整は行っているはずである。

○小松委員

長年この会議の委員として携わってきて、各区や地域で様々な事業が行われてきている。先ほどの区長対話会の議論に関しても、関心を持ってもらえるような広報が必要である。また、フィードバック、アウトカム、フォローも重要である。

次に、エクセルファイルにて公開したことは、よいことであるが、検索機能を高めるなど、さらに進化をしていってほしい。それから、以前から申し上げているとおり、グッドプラクティスを出してほしい。

それから、58 ページ、59 ページに関して、ボランティア関係の様々な事業が行われているが、オリンピック・パラリンピックで終わらないようにしてほしい。

最後に、文化の分野を設けていくようなことも必要である。

○福川会長

この7分野は何かで決まっているのか。

○佐久間課長

市の組織に基づく分け方で、文化関係は市民生活の分野に入っている。

○粉川委員

オープンデータ化に関しては、スピーディーな対応は評価する。その上で、せっかくやったからには過去のデータが比較できるようにしてもらいたい。その上で、若干気になるのが、それぞれの事業の参加者数について、実数だと思うが本当に実数か疑問がある。データとして公表するのであれば、データの精度が問われるのでそのあたりを庁内に周知したほうがよい。

○眞智委員

パブリックコメント手続について、意見数が少ないのもう少し周知の仕方などを検討してもらいたい。

附属機関公募委員について、公募委員数は出ているが、応募者数も載せていただくと実態がわかるのではないか。

参加人数のカウントの仕方、協議会等では延べ人数はふさわしくない部分もあるので、検討願いたい。

○吉岡委員

パブリックコメント手続について、私も以前、意見を提出したことがあるが、おぎなりの回答であった。このパブリックコメント手続が、全国的に一種の禊として定着しているのであれば仕方ないことかもしれないが、意見を言っても無駄であると感じた。

○小柳委員

同感である。パブリックコメント手続を実施したから市民の意見を聞いた、というように感じてしまう。

○粉川委員

京都市にパブリックコメント普及協会というものがあり、市はそちらと協定を結んで広報周知を図っている事例もある。

○福川会長

パブリックコメントだけ注目すると今のような意見となるが、一連のプロセスを見せられるようにするとよい。

○中村委員

吉岡委員の意見は、多かれ少なかれみんな思っている。やり方を考えていかなければならない。

○吉岡委員

パブリックコメント手続に提出された原文は見られるのか。

○佐久間課長

個人情報を除き、情報公開請求を行えばご覧いただける。いただいた意見には必ず回答し公表するので、必ずしも無駄にならないと認識している。

○眞智委員

回答の仕方等の工夫も各所管課にお願いしてもらいたい。

○福川会長

それでは、議題については承認ということによろしいか。

(一同、承認)

○福川会長

続いて、報告事項について、事務局から説明願う。

○佐久間課長

(資料2-1、2-2に沿って説明)

○福川会長

ご意見等はいかがか。

○山本佳美委員

地域活動相談の窓口はどこになるのか。

○佐久間課長

一案として市民活動支援センターにと考えているが、今後検討していくこととなる。

○山本佳美委員

自治会は、社会福祉協議会との関わりもあるが、市は社会福祉協議会との関わりはどのように考えているか。

○佐久間課長

社会福祉協議会には、地区部会があり、そちらが窓口となる。

○山本佳美委員

既に地域の担い手は、様々な役割があり負担が大きくなるのではないか。

○井上副会長

他人依存型の市民をどう意識を変えていくかが重要である。また、子供たちに教えていくなど仕掛けづくりの仕組みを作ってほしい。それをわかっている人は増えてきている。

○福川会長

長期的な視野で期待しているということか。

○吉岡委員

地域のプレイヤーの一人として、期待している。地域活動応援団の構成員はどのような人を想定しているか。

○佐久間課長

主に企業を想定している。社会貢献の一環として募っていくことを考えている。

○吉岡委員

大きくはできないがちょっとだけなら参加できるというように、スモールステップで行ったほうがよいのではないか。また、現プレイヤーを使った相談窓口のようなものがあるとよい。

○中村委員

企業の社会貢献として考えると、ジェフユナイテッド千葉など今やっているCSRを活用してもらいようなことも検討したらいいか。

○吉岡委員

具体的に今できることを示してあげることが重要である。

○山本俊子委員

受け入れ側である町内自治会の体力も必要である。

○吉岡委員

自治会の負担を減らし、市民プレイヤーを使っていくとよい。

○山本俊子委員

個人として地域に関わりたいが団体に属するのは嫌だ、という人もいる。組織運営の煩わしさのようなものを感じる人も多い。

○小柳委員

そういう方々は多いと感じている。

○粉川委員

そのような手法は、既に千葉市内でも36地区連協で行っている。そういう事例を参考にしていったらよい。

○小松委員

ボランティア活動をしている方は、活躍の場と機会がないと続いていかない。ぜひ、マッチングシステムを作ってほしい。

○山本俊子委員

千葉市には、「ちばぼら」というシステムがあるが、少々使い勝手が悪い実情がある。

○粉川委員

やるのであれば、来年やらないといけない。

○小松委員

ぜひ、本気になってやっていただきたい。

○粉川委員

日本のボランティアのきっかけは、大きくは1995年の阪神・淡路大震災であるが、それ以前に国体もきっかけであった。よって、この来年のオリンピックの機会を逃すことはない。

地域運営組織をどうするかというのは、ホットな話題である。広報戦略を本気で検討していただきたい。千葉市の取組が全国的に代表的な事例となるようになってもらいたい。この条例が制定されたこのタイミングを逃してはいけない。

○福川会長

今後は条例の逐条解説書の検討を進めていくことになる。これまでは、検討過程で出された考えのうち、条例に反映しきれなかった部分を逐条解説で補うというような発想があったが、それだけに留まらないものとしていきたい。

本日は、実りのある議論ができた。他に事務局から何かあるか。

○佐久間課長

次回の会議は、10月の最終週の開催で調整させていただきたい。

(終了)